

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた 2ユニット		
所在地	赤磐市 殿谷 32 - 1		
自己評価作成日	平成23年02月17日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3372200927&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度後半は入退所の方が多くありました。新しい方にとって、新しい生活は不安でしょう。入居者によって ホームは又新しい雰囲気になります。ほぼ寝たきりで入居された方の人間回復に努めています。私たちは、家庭的雰囲気を大切に、その人らしい ふうの生活を送ることが 決して笑顔だけではなく、それは家族のように怒ったり泣いたり そして笑ったりが自然にできる事こそ その人らしいふうの生活であることを 入居者の皆さまから教えてもらいました。
また、困難な日々があっても ひなたで最期の時をむかえ、ひなたでよかったと家族に言っていたに感謝をし、認知症になっても そうきましたかと笑顔で受け入れる私たちが いつも そばにいます。
本年度の目標達成計画から会話を大切に、より多くの話を記録にする事に力を入れました。現在も継続中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

約5年半ぶりに外部評価の訪問をした私は、数多くの成長の証しを確認する事ができた。その一つは、他のホームでは退去を迫られる程に激しく認知症や医療面が重度化している利用者を「例えばどんな状況の方でも出来る限り最後までお付き合いしたい。その方一人ひとりが私達を成長させてくれる」として受け入れている事。そしてこのホームでのケアによって改善した事例が数多くみられる事。地域との輪が広がり、声がかかる事が多くなった事。この他に目を見張るような事例は多いが、これらは目標達成計画における取組みに真摯に向き合っているからだろう。また、その職員の言葉にしっかり耳を傾け、可能な限り働きやすい環境を提供している代表者の支えがあつての事と思う。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	足踏み状態の取り組みの中、プランに直接取り入れてみると、実践につながる理念は、多くの言葉でないことに気づく。今、改たに、必ず実践できる理念を職員と一緒に作り上げている。	GH「ひなた」の運営理念を3つ、介護理念を5つ玄関に掲示し、常に意識して実践している。目標達成計画でもケアプランに取り組む試みを始めている。理念の数を減らして焦点を絞り込むことも考えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加するうち、地域から「おっ、新顔かな」と言っただけになった。更に本年度は地域交流の幅を広げ赤磐市消防主催の大会にも初参加でき、他企業と交流ができた。	近くの方が囲碁・将棋のお相手に来てくれたり、保育園児とはほのぼのとした交流が見られる。以前はホーム側からの働きかけが主であったが、今は地域の方々の方から声を掛けられるようになった。	ホーム開設当時に思い出すと格段の違いが見られるようになってはいるが、まだまだ輪を広げる事ができそう。文化祭に今後地域の参加を呼び掛ける予定と聞いたが、運営推進会議等を通して、今以上に交流して欲しい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座でグループホームを紹介する場を設けて頂いた。又、運営推進会議では多方面の職種の方の参加をしてもらい、理解を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の最近の様子、事故報告やヒヤリハットの内容など、なるべく詳しく報告し、意見をいただいている。又、最近、防災について真剣に地域との連携について意見していただいた。	利用者家族の代表・地域の代表数人及び駐在所や消防本部・地域包括担当者その他多くの参加があり、非常に内容の濃い会議を2ヶ月に1回、確実にやっている。意見交換の様子も良く分かる記録が見られた。	このホームの運営推進会議はホームの運営や地域の認知症理解にも波及効果の大きい優れた内容と評価したい。但し、この効果を更に高める方法を工夫する事ができれば、また異なった良い影響も期待できる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことは市へ相談し、適切なアドバイスをもらっている。相談内容から実情の理解を得ている。又、励ましてもらっている。	運営推進会議には市の担当者や地域包括支援担当者が出席し、良いアドバイスや情報提供をしている状況が会議録から良く分かる。利用者を取り巻く状況も問題が増えて来ているが、担当者と共に連携を取って解決するようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制限する行為はしないよう取り組んでいる。外出しそうな様子に、止めるのではなく、話をしながらさりげなくついていく等、自由な暮らしの支援をしている。玄関の施錠はしていない。	身体拘束禁止の対象となるような具体的事例は全く考えられないが、職員の言動が心理的抑制につながるような事はないか、日頃の振り返りで気をつけている。利用者の言葉からもその人の心の内側を探ろうと目標に掲げ取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加。 身体的虐待はもちろん、心理的虐待不適切なケアについて勉強会を開き学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームに成年後見人制度を利用された方が入居された事で、職員も理解を深めることが出来た。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必ず十分な時間をとって説明をしている。最近では看取りについて、ホームの指針を説明し個々に理解を得るための意見を伺い随時理解・納得していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、なるべく詳しく様子報告し、意見を求めている。運営推進会議には、必ず家族に参加してもらい、感想・意見をいただいている。又、利用者の発する言葉の奥の言葉を理解するよう努めている。	目標達成計画に「利用者の側にもっと寄り添い、言葉も引き出そう」と取り組んでいる最中である。家族からも日頃から、また、運営推進会議等において家族の思いや希望を聞き出すよう努力している。	利用者本人から、また、家族から思いや希望を聞く努力は良くしているが、それぞれの立場に立った工夫や仕掛けがまだ何か考えられるのではないかと。出来る事から一つでもしっかりした形にしてしてみよう。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入退去者の変動が多く、入居者も職員も不安やストレスが多く、馴染みの関係の再構築が必要である。前向きな意見が反映されるよう、ミーティングや職員面接を設けている。	いずれのホームでも職員の意見や要望に代表者や管理者はよく耳を傾けてはいるが、このホーム程前向きに反映させている所は中々見当たらない。職員の希望で各自45分間の休憩をとったり、職員配置や勤務体制も他よりゆとりがあるのは職員を大切にしている証拠だろう。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面は諸手当、準職制度を取り入れている。勤務体制も希望となるべく取り入れ、緊急時にも対応できるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修があれば受ける機会を確保し、資格取得、能力向上のための期間研修費用における協力を進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの行事を、市内他グループホームにお誘いし、交流の機会をつくった。今後も続けたい。 又、提携医院との合同勉強会開催ができ、職員の意識向上になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初、しばらくは不安である事と十分に理解され、安心していただくために私たちは、寄り添う介護を重要とし、必要に応じ、マンツーマン介護に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族は、心身先に過労状態多く心労を労い、なかなか解決しない不安や、一番に願う要望から援助することに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初は細かく様子を報告し、連絡を密にしながら、家族の希望する支援の確認と改たに必要とする支援を伝え対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合っている生活していることに気づく。常に自分に置き換えて「自分だったら・・・」という気持ちで接するように心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新しく入居された方と信頼関係をつくるために、職員は寄り添うケアを一番に心がけている。入居者の発する言葉を鵜呑みせずその奥の言葉を聞きとることで家族に伝え、本人の胸中を家族と共有している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が活躍されていた頃的话题を、地域の方から教えてもらうことがある。今は自ら話すことはなくても、こちらから話題にする事で、記憶がよみがえっている事に気づく。	招待された幼稚園の運動会で懐かしい人に出会い「この人には本当にお世話になった」等話が弾んだり、退去した人の家族が大正琴の演奏に来てくれる等、地域に密着したホームの良さがよく伺われる。	昨年度の目標達成計画の一項目である「もっと寄り添い、会話を大切に」は継続していくが、この会話の中から「関係継続支援」の一例でも見付けて些細な事でも実現したら嬉しい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格をよく理解し、職員は自然な形でそれぞれの輪を作り、コミュニケーションの援助をしている。うまく気持ちを表現できない方に寄り添い、会話の間に入り支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、これまでの関わり、思いはつながっており、利用者が亡くなられても、家族が立ち寄って下さることに感謝している。又、新しい思いを受け止める配慮に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、その瞬間、瞬間の思いを大切にし、ホームでの生活が暮らしやすいよう努めている。そんな中、皆さんの意向に添うことの難しさを感じる。	昨年度の目標達成計画の取り組みはこの項目の実現にも反映できる。今日の短時間の訪問の中でも「この人達はイエス・ノーをはっきり言う」「話しかけたい人が多く、思う事を遠慮なく言う」等感じた。職員はそうできない人に対しても、じっくり向き合っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接から情報を得、生活習慣の把握に努め、家族と本人から入居に至ったまでを伺いながら馴染みの暮らしを大切にしよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームで住み慣れた生活をしていただくために、一人ひとりの生活リズムが大切なことがわかる。できる事をできる時にさせていただく事は心身状態も大きく左右するため、日々の気持ちの変化を常に把握し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題のすい上げ、ケアのあり方、方法はミーティング等で確認し意見やアイデアを出し合い、反映させているが、定期的なモニタリングは難しい。一方的な介護計画にならない様、配慮したい。	昨年度の外部評価の提案を受けて目標にも掲げ、GH「ひなた」独自のケアプラン作成を試作中である。「歴史となり宝物になる、つなげるケアプラン」が確立されるまでには少し時間がかかるかも知れないが期待している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックス、日々の介護記録に様子や利用者の言葉を記録している。夜間帯の申し送りはなるべく時間を多くとり、日常の関わり方につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの気持ちに寄り添うことは、安心・より深い信頼関係につながる事を職員は理解している。新しく入居者があった場合、必要に応じ人員体制強化したり、勤務時間を柔軟にしサービスが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議は、多分野の方の参加がされ、回を重ねるごとに身近な関係になっており、地域からイベントのお誘いを受けるようになった。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は構築されており、私たちは信頼し適切な医療が受けられている。急変時の往診も確立されている。また、希望に沿って入居以前のかかりつけ医の受診も当然、可能である。	提携医のうえの内科医は原則として2週間に1回往診。この年末年始は休みなく診てもらった人も居る。急変時の対応の指導や看護師の応援も得られる等、本人・家族、そして職員も安心できる	提携医以外の受診支援は職員が対応する事も多いと聞いた。職員が受診に付き添うと様子が良く分かり利点も多いが、今後利用者の重度化も予想できるので、「家族の役割」を原則としてどうか。この方式の利点も多く考えられる。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	重度化の方など、日ごろから状態を把握してもらい、ちょっとした変化においても相談すれば適切な助言、必要に応じて受診、往診とし、出来る限りの協働ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症の方の症状を理解していただけるよう情報提供に努めている。体制的に入院の継続が困難な病院もあり、早く退院出来るよう積極的に支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、必ず重度化に向けた指針を説明している。過去の経験から入居されたときから看取りについて家族の気持ちをうかがう事になっている。出来る限り本人や家族の意向に沿って、共に支援したいと思っている。	ホーム開設以来4人の看取りを経験している。終末期には特に医療面のバックアップが不可欠であるが、かかりつけ医の強い支援に支えられている。今後についても本人・家族の希望が強く種々の環境を整えば、相当の重度化や終末期もここで頑張るつもりである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急要請をすることがたびたびあり、両ユニット間で、協力・連絡体制は概ね身につけていることができる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員からの希望で、最近の避難訓練は夜間帯を想定し、近所の方の応援も協力を受けている。訓練から気づいた事をマニュアルに改正している。	運営推進会議でも記録が見られるように消防本部の出席も有り、避難訓練も実施し、指導・助言を受けている。スプリンクラーは来年度完成の予定。職員は赤磐市の消防技術訓練大会に参加し、実地訓練の技を競っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは大変難しい。気をつけていても受けとる瞬間のタイミングで不穩にもなるため 親しい仲にも敬意を持って接している。	介助が多く必要な利用者に手を掛けていると、自立に近い人は不満に感じる等、実際介護現場では「一人ひとりの尊重」はなかなか難しい。しかし、職員は時間や場をずらす等工夫をしながらケアしている。トイレ誘導等でもプライバシーにはよく配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らなかなか主張できない方には二択で選びやすいような声かけをしている。また希望が真意でないときもあり、職員は心の声を聞くように心がけている。それでも介護側の都合で出来ない時もあり難しい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、ペースや気持ちに寄り添う対応を心がけている。居室とホールを何度も行き来するのを介助する、1時間以上ゆっくり時間かけて食事するを見守ること等、安心していただく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを大切に、家族の協力も得ながら支援している。夏にワンピースを着る入居者が入居されたことで、職員のおしゃれに対する感覚も変わった。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の食事づくりは ほとんど利用者といわい楽しみながらつくっている。出来る方には積極的に、難しい方にも 寄り添い会話という形で参加してもらっている。	このホームの運営推進会議の「報告」の最初が「畑」である。「その畑の野菜は猿やイノシシと私らが食べとる」と 産が教えてくれた。食事専門の職員も居て、三度三度が美味しいと言う話も聞いた。食べる事はとても大切に考えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの適量を把握している。常に状態の申し送りを行い、形態も柔軟に変更している。一日の水分補給を職員間で確認し確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアをしている。また、声かけの代わりに、じゃんけんゲームでケアしやすい雰囲気をつくっている。拒否する方にも 声かけの工夫をし、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かしている。サインを敏感に察知している。自立の方には排便の報告をしていただけるように工夫をし、さり気ない声かけ確認できている。	トイレでは大声を張り上げて「怖い・嫌だ」等意思表示をする人、失禁が頻繁にあった人等流儀は様々だが、内に秘められた原因をあの手この手で突き止め、自立へ向けた支援を職員は粘り強く続けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを組みながら、飲食物の工夫をし、予防に力を入れている。 職員は利用者の排便をご本人より喜んでくれるかもしれない		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を喜ばれている方とそうでない方のタイミングを合わせることは難しいが、入浴中は職員とゆっくり会話を楽しむことができる支援をしている。	入浴計画はあってもその時拒否したり失便がある等、個々の色々な状況に合わせた支援をしている。2～3人の介助が必要な利用者も居たり、散髪デーは全員お風呂デーにする等、様々な対応をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の流れは、本人の意思を尊重し、暮らしやすいリズムに少しずつ整えられるようにも支援している状態は日々変化あり大変難しい。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の把握、臨時薬の把握、またその時におこりうる症状について、医師薬剤師からの指示をあおぎ、確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こちらから、喜んでいただけそうな役割の声かけしながら楽しみを増やすよう努めている。又、継続できるよう一緒に行うよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会があれば、なるべくでかけられるよう努めている。一瞬一瞬を大切にしている。 日中の生活からも、戸外へ出る工夫の声かけに努めている。	行事計画で決められた外出や地域行事・園児達との交流等の他に、時候の良い時は出来る限り外に出よう声掛けしている。運営推進会議での意見交換の中でも「もっと外へ」という提案や話し合いの様子が変わった。	運営推進会議の記録から「初詣で初冬のどんの外食が好評だった」という感想を見た。この様なちょっとした喜びやサプライズを探していけば、小さな外出の効果が地域社会の一員となる等色々な副産物をもたらしてくれるだろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はできていない。買い物支援時、レジと一緒に支払う声かけに、財布を持ちたがられなかった。入居者の状態や力に応じ支援はしたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届くと、差し出し人と本人の了解のもと読み聞かせ、支援している。年賀状などみんなで作成し、家族宛には、どこかに参加していただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に、掲示物を一緒にゆっくり作る、飾る。 最近は浴室を温泉気分にと、希望があれば入浴剤を入れつつういでいただいている。	「猿の来て困るけどついこから見てしまう」とさんが教えてくれる「ひなた園」やホーム前の広い物干し場は、皆さんの働き場でもあり楽しみ場である。明るくて広いホールには日頃頑張って作った作品が見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、思い思いに過ごしていただいている。その中で、職員はつかず離れずの距離で事故のないよう見守っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、新しい生活をしていただく中で家族には、使い慣れた物、馴染みの物を持参していただく協力をお願いしている。写真は特にたくさん持ってきていただいている。	美しい塗り絵の主の居室は本人がいつもきちんと整頓し掃除もする。お願いして部屋を見せてもらったさんは「夜寝る時使うだけだから」と言いながらもあれこれ自慢そうに説明してくれた。「今も母と家で暮らしている」と言うさんは「ここも良い部屋」と満足そうだった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活を把握し、わかることを活かしている。役割ある生活動作がしやすいよう声かけ、見守っている。		